

言語論のキーパーソン

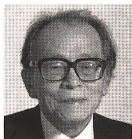
■ フェルディナン・ド・ソシュール——記号論の祖



一八五七年生まれ。スイスの言語学者。言語を記号と考え、その恣意性を説く。個々の言語の構造に注目する彼の考えは後の思想家に影響を与えた。著書に『一般言語学講義』がある。

5

■ 外山滋比古——英文学者の立場から日本語を研究



一九二三年生まれ。英文学者、言語学者。欧米の論理を「線」の論理、日本の論理を「点」の論理とし、創造の余地が「線」にはないが「点」と「点」の間にはあると述べる。著書に『日本語の論理』がある。

10

■ 鈴木孝夫——国際社会から日本語を見る



（↓）三六頁「作者紹介」。ことばと文化との深い結びつきや国際社会における日本語の地位・特徴などを独自の言語観から分析する。

↓ 書籍紹介

15

■ 酒井邦嘉——脳科学から言語に迫る



一九六四年生まれ。言語脳科学者。言語の問題を脳科学というサイエンスの視点からとらえ直し、脳がことばを生み出す仕組みを考える。著書に『言語の脳科学——脳はどのようにことばを生み出すか』がある。

20